

1 趣旨

中央区保健医療福祉計画の基本施策2「気づきあい支えあいつながる地域づくり」では、区民一人一人が互いに認め合い、地域の困りごとに気づき、関心を持ち、我が事として捉え、地域の多様な資源を活用して解決に向けて支えあう地域づくりが行われるよう、以下の4つの視点から施策を推進しています。

施策の方向性 (P. 54～)

- (1) 地域コミュニティの活性化
- (2) 地域の担い手や活動団体の育成・支援
- (3) 重層的見守りネットワークの充実
- (4) 心のバリアフリーの推進

区では、「地域福祉ワークショップ」の開催などを通し、身近な地域における顔の見える関係づくり、支えあいの仕組みづくりを推進しています。

また、地域では町会・自治会を単位とした地縁に基づく気づきあい・支えあいに向けた活動に長年取り組まれてきました。そうした中、町会・自治会の単位に関わりなく身近な地域を単位とした活動が、少しずつ広まりを見せています。今回はその一例についてご報告します。

2 事例—♪入船湊ふれあいネット—

民生・児童委員、町会・自治会、ささえあいサポーター、ふれあい福祉委員など、地域ではさまざまな立場からの見守り活動が行われています。しかし、それぞれの活動が行政、社会福祉協議会等で分かれている現状から、地域で活動している人たちや地域をよく知っている人たちの連携、ネットワークづくりが課題との考えのもと、地域住民同士の「顔の見える関係」をつくり、地域の課題解決につなげることを目的として、民生・児童委員が中心となり「♪入船湊ふれあいネット」が立ち上がりました。

令和4年1月に第1回目が、5月に第2回目の話し合いが行われており、参加者からは、「毎日見守りをされていて何かあればすぐに民生・児童委員に相談しています!」「民生・児童委員がどういう人なのか知らなかった。こういう機会があってよかった。」「自ら発信できない人、出てこない人をどう支援するか。きっかけをつくって引っ張り出してあげたいと思っています。」「自分を気にかけてくれる人がこの地域にいるということを知ってだけでもいいのでは。」「たくさんの気づきの目が地域のつながり作りになればいいですね。」など、それぞれの立場のもと活発な意見交換が行われています。

●第1回目

日時 令和4年1月22日(土) 午後2時から

場所 湊二丁目町会事務所

参加者 16名(民生・児童委員、町会婦人部、ふれあい福祉委員、ささえあいサポーター、社会福祉協議会、行政など)

内容 地域で気になる方・支援が必要な方をみつけ、支援につなぐ・見守る方法
災害時の安否確認体制など

●第2回目

日 時 令和4年5月14日（土）午後2時から

場 所 湊2丁目町会事務所

参加者 13名（民生・児童委員、ほがらかサロンスタッフ、いきいき地域サロン代表者、ささえあいサポーター、通いの場スタッフ、社会福祉協議会、行政など）

内 容 自ら発信できない人を支援する体制・仕組みづくり、所属を超えた地域のネットワークと情報共有の仕組みづくり、見守りを希望しない方との関わりなど



第1回 開催時の様子



第2回 開催時の様子

3 事例—民生・児童委員による地域の意見交換—

京橋地域民生・児童委員協議会では、コロナ禍で民生・児童委員同士の関係性が薄れてしまったこと、民生・児童委員としてのノウハウを思うように共有できていないとの気づきをもとに、小地域を単位として民生・児童委員が有志で集まり、情報交換する場を定期的に設けています。

社会資源の情報共有により新たな気づきを得られるほか、社会資源の情報共有、対応に苦慮した事例の共有や意見交換なども行われており、日頃の活動を後押しする機会となっています。小地域という身近な地域を単位とした集まりだからこそ、日頃感じている思いや気づきを積極的に発言する機会となっており、住民主体の地域づくりを後押しする場として機能しています。

4 事例—子育てサロン ユルっと銀座—

地域には多様な居場所や地域活動、サロンなどがありますが、新たに子どもや子育て中の親、祖父母、プレママ・パパを対象とした子育てサロン「子育てサロン ユルっと銀座」が10月に立ち上がります。

主催は京橋地域民生・児童委員協議会の有志であり、立ち上げの背景には「♪入船湊ふれあいネット」での「子育て家庭の居場所が地域に不足しているのではないか」などの参加者の気づきや、日頃の民生・児童委員としての活動を通じた思いがあります。絵本を読んだり、お話を楽しんだりなど、思い思いの時間を過ごすことができます。今後は実際の様子を見て内容の充実を図ると共に、いずれは地域住民をも巻き込み、気軽に立ち寄ることができる「みんなの居場所づくり」を目指したいとの思いを伺っています。

●子育てサロンユルっと銀座

日 時 令和4年10月14日（金）
午前10時から午後7時
※参加費無料・出入り自由
場 所 京橋コミュニティルーム 和室
対象者 0歳以上の子どもと子育て中の親、
祖父母、プレママ・パパ



案内チラシ

5 事例—日本橋七の部連合町会 地域福祉懇談会—

新型コロナウイルス感染症をきっかけに、地域では社会的孤立や生活困窮、フレイルの進行など様々な課題が浮き彫りになったことを背景に、地域で安心して暮らしていくためには、区による基盤の整備に加えて、住民が主体的に地域生活の課題解決に向けて話し合う場が必要とされています。

そこで、日本橋七の部連合町会では、地域住民が地域課題に関心を持ち、自由な意見交換を行い、参加者同士の「横のつながり」を深めることを目的とした「日本橋七の部連合町会 地域福祉懇談会」を計画しました。令和4年1月の開催に向け調整していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け開催は見合わせており、感染状況が落ち着いたタイミングで開催したいとのお話を伺っています。

●日本橋七の部連合町会 地域福祉懇談会（中止）

日 時 令和4年1月14日（金） 午後3時
場 所 阪本小学校 ランチルーム
対象者 町会長・民生児童委員・ふれあい福祉委員会・あんしん協力員会・青少年委員・阪本小防災拠点委員会・連合青年部・坂本町公園未来グリーンクラブ・中央母の会・防火女性の会・阪本小PTA・区議会議員
内 容 中央区の現状と課題についての説明、意見交換など

6 今後に向けて

これらの小地域での活動以外にも、地域では多様な地域活動が行われています。「気づきあい支えあいつながる地域づくり」に向けては、行政も積極的に地域に出向き、地域の声を聞くこと、そして共に手を取りあい支えあいの仕組みづくりに取り組んでまいります。